



『虹の見え方』

脚本：アストン=路端  
画像：コミポ！

[www.comipo.com](http://www.comipo.com)

あああああ...

むかしむかし

あるところに

おじいさんと

おばあさんが

住んでいました



紫刈りを

おじいさんは



おばあさんは

洗濯をする

暮らしてました



そして

おじいさんと

おばあさんは—



↓隠れている生き物は？ 答え：たくさん



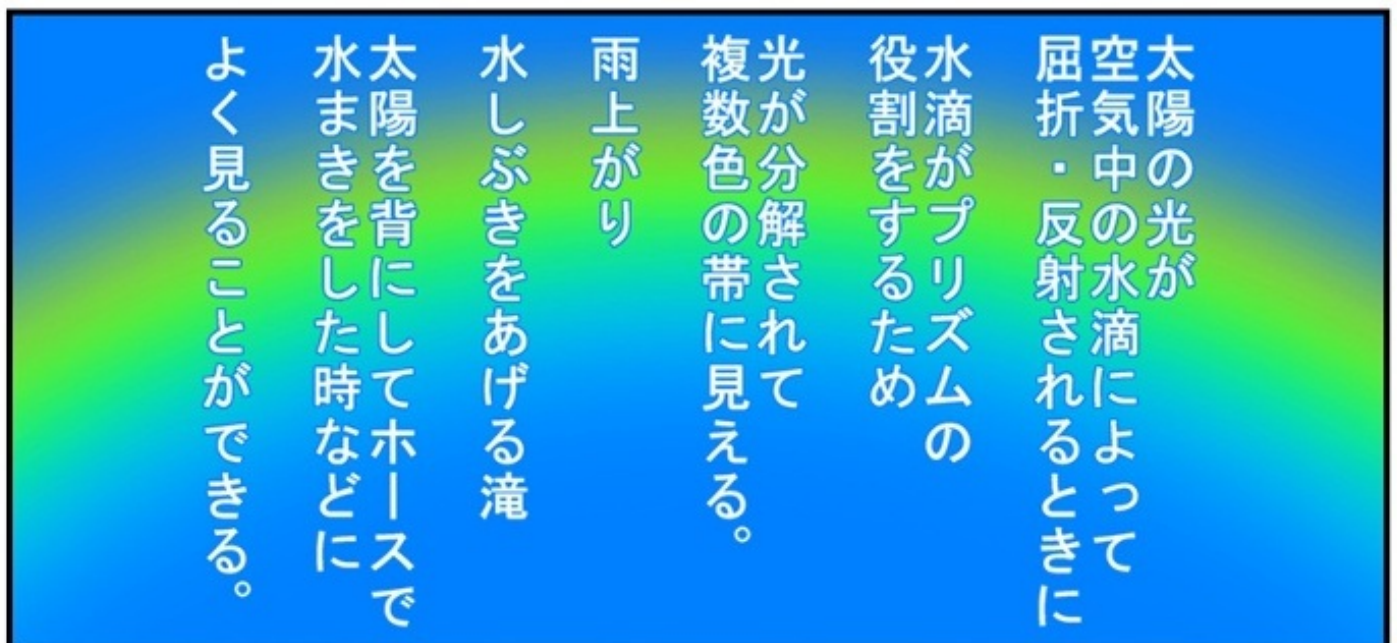


『虹の見え方』

脚本：アストン=路端  
画像：コミポ!



虹（にじ）とは  
赤から紫までの  
光のスペクトルが並んだ  
円弧状の光である。



太陽の光が  
空気中の水滴によって  
屈折・反射されるときに  
水滴がプリズムの  
役割をするため  
光が分解されて  
複数色の帯に見える。  
雨上がり  
水しぶきをあげる滝  
太陽を背にしてホースで  
水まきをした時などに  
よく見ることができ。

現在の日本では虹の色の数は一般的に7色であるとされるが物理学の視点では無限の色が有ると見るのが正しい。

地上に届く太陽光のスペクトルは連続しており連続する物を数えることは出来ないからである。

イギリスの自然科学者  
アイザックニュートン  
（旧暦一六四二〜一七二七）は

プリズムを使った  
太陽光線の分光実験で

虹の色と色の間は無限に変化  
していることを知っていた。

しかし当時は  
『7』が神聖な数だと  
考えられており

虹も7つの色から  
できているとしたのである。



現在のアメリカでは一般的に赤・オレンジ・黄・緑・青・紫の6色と認識され

ドイツでは物理の教科書でスペクトル分類と合わせて赤・オレンジ・黄・緑・青・紫の6色、または

ニュートンの名とともに藍（インディゴ）を加えて7色としていて

人々の認識も様々である。

虹の色を何色とするかは地域や民族・時代により大きく異なる。

日本でも5色（古くは8色や6色）

沖縄地方では2色（赤、黒または赤、青）

中国では古くは5色とされていた。

現代でもかつての沖縄のように明・暗の2色として捉える民族は多い。

インドネシアのフロロレンス島地方では赤地に黄・緑・青の縞模様（赤・黄・赤・緑・赤・青・赤）とするが

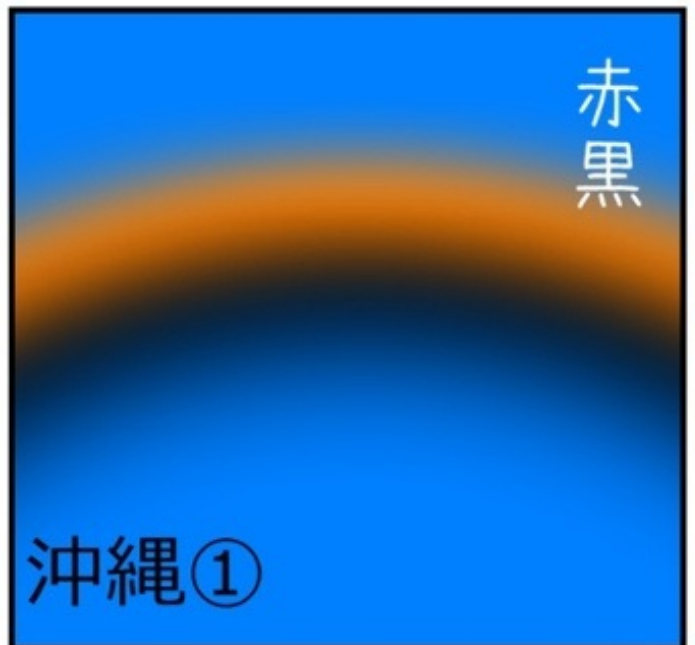
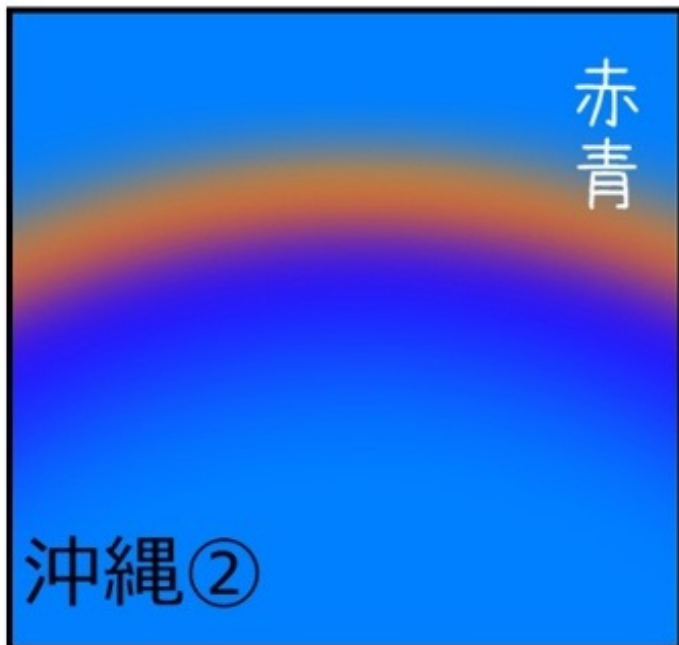
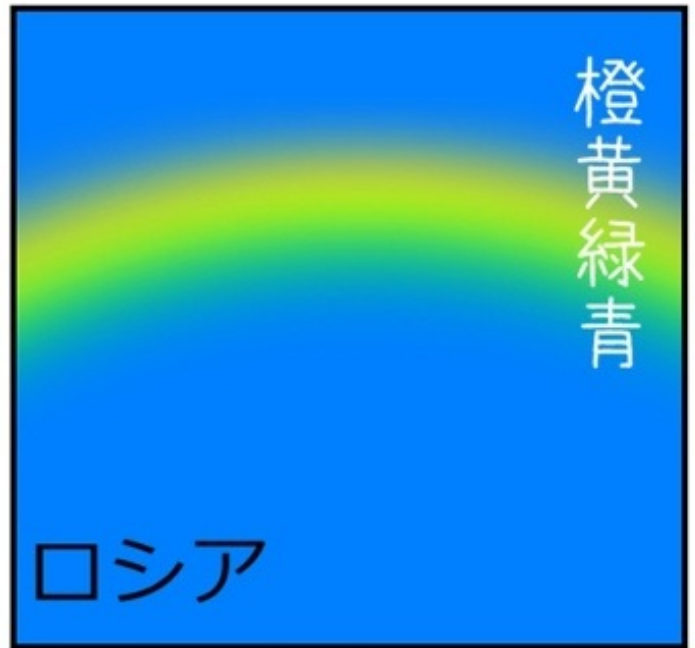
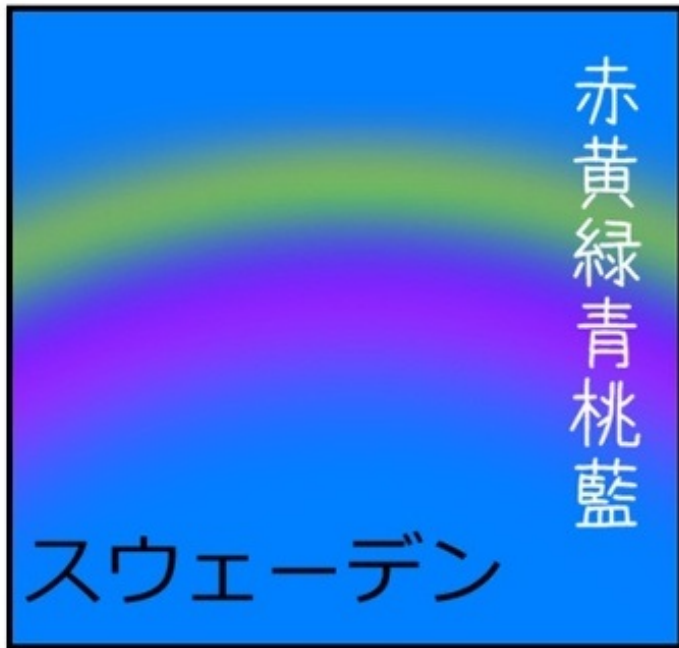
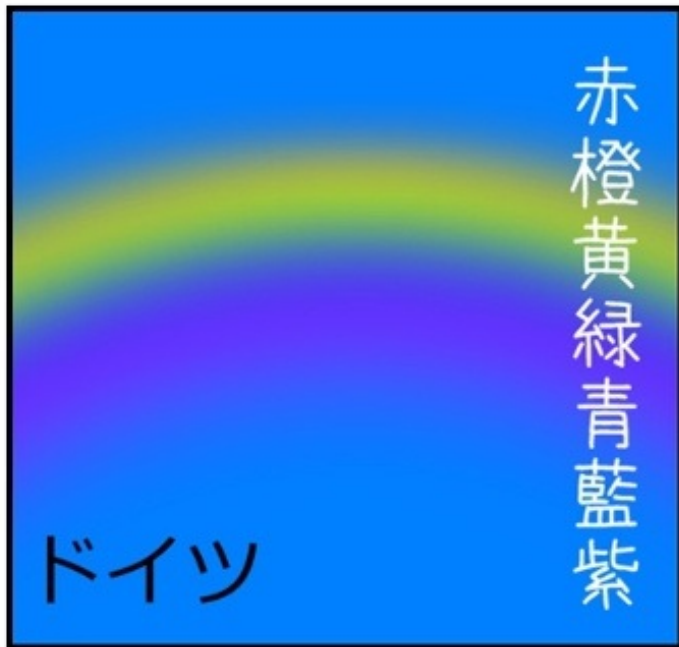
スペクトルとして光学的に定められた概念とは異なった順序で虹の色が認識されることも多い。

赤  
緑  
青

ニュートン以前①

赤  
黄  
緑  
青  
紫

ニュートン以前②





赤黄緑黒

アフリカ

赤黄赤緑赤青赤

インドネシア  
フローレンス島

虹の色が何色に見えるのか？

それは科学の問題ではなく

文化の問題である。

何色に見えるかではなく

何色と見るか

ということである。



英語のレインボーは  
「雨の弓」  
仏語のアルカンシエルは  
「空に掛かるアーチ」  
他にも  
女神や龍、神の蛇  
雷の矢を放つ弓  
天に通じる橋などの形で  
各国の神話に出て来るね



だろ？  
因みに—

虹ねえ：  
梅雨時だし  
良いかも  
知れないわね



『二次』とは  
関係ないぞ？

うん  
知ってた



二次元 (にじげん)

次元が二つあること。

または二つの次元で表せる概念

中でも二次元空間や平面のこと。

転じて

アニメ絵やそれを伴う

創作物を指すネットスラング。

略して二次と呼ぶことも多いが

二次創作のことではない。

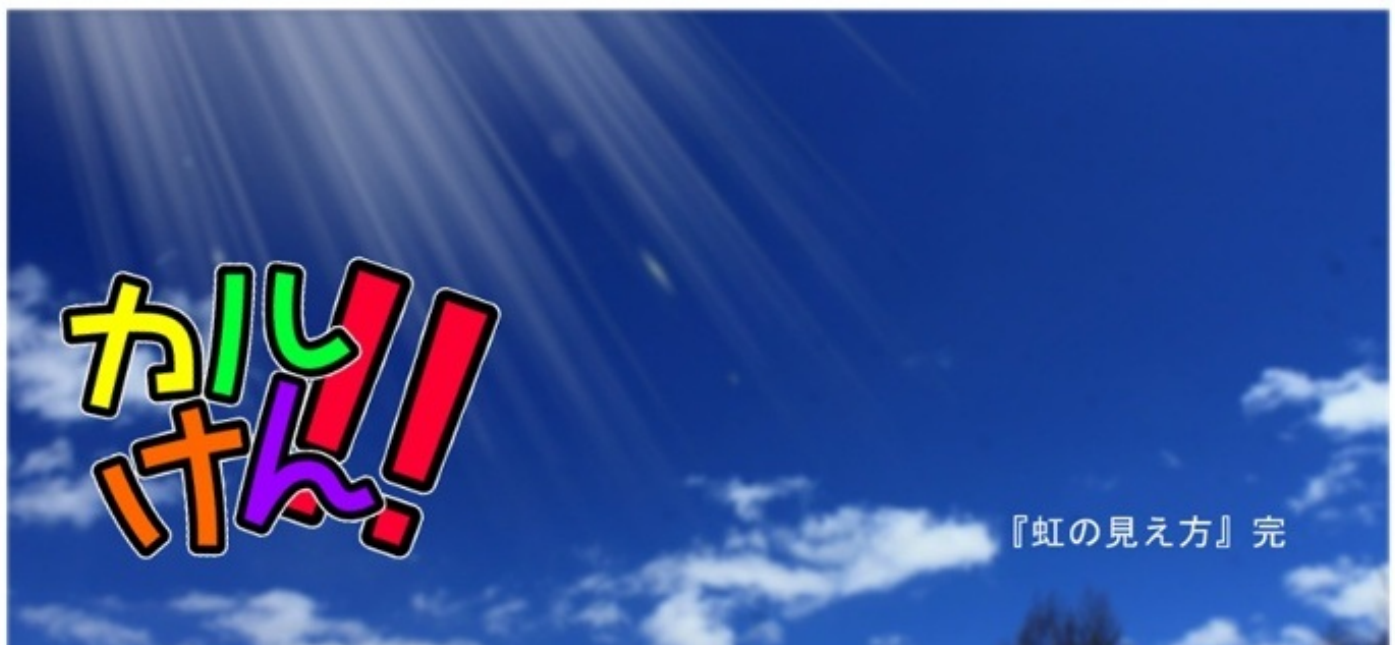
この説明  
要る？

虹はさまざまな色を含むが

そのすべてが太陽の白色光から分かれたものであり  
各色の間に明確な境界を引くことはできない。

この性質から虹色の旗は

「多様性」「共存」の象徴として用いられている。



カルけん！！（３３）

<http://p.booklog.jp/book/107669>

著者：アストン＝路端

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/robounoishi2009/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/107669>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/107669>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ